

# Access 2013を 使う前に

- 1.1 Accessでできること
- 1.2 Access 2013の新機能
- 1.3 Access 2013を導入する

Accessというデータベースソフトは、WordやExcelほどには一般の人にとってなじみがないアプリケーションです。しかし、何をするアプリケーションなのかを知ると、Accessの応用範囲の広さや便利さがよくわかるでしょう。

本書の最初の章として、ここではAccess 2013という製品の内容と、購入前の注意点やインストール方法について説明します。

1  
Accessを  
使う前に

2  
Accessの  
基本操作

3  
テーブルを  
使う

4  
データベース  
を設計する

5  
クエリを  
作成する

6  
フォームを  
作成する

7  
レポートを  
設計する

8  
データベース  
の管理

9  
Accessの  
カスタマイズ

10  
フォームや  
レポートの設計

11  
アプリを  
作成する

12  
テンプレート  
の使用

13  
データベース  
作成の手順

資料  
Appendix

索引  
Index

Section

1.1

Level



Access 2013

# Accessでできること

**Keyword** ● データベース ● リレーショナルデータベース ● データベースオブジェクト

まずは、Accessとは何で、どんなことができるかということから話を始めます。Accessはデータベースソフトですが、データベースというと、大企業が使っている、専用のサーバーを使った大規模なものを思い浮かべてしまいがちで、一般人にはあまり使い道がないと思ってしまわれるかもしれませんが、データベースとは何かということを理解すると、逆に身の回りの様々なものがデータベースに見えてきます。

## Point Accessの特徴

Accessは、次の特徴を持ったシステムです。

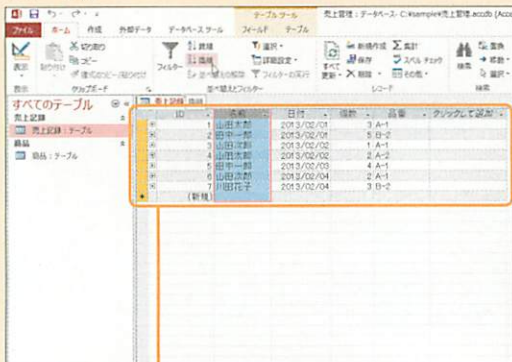
- 大量のデータを集めて表形式で保管する
- データに対して、条件を指定しての検索や、複数の表の関連付けができる
- ユーザーによる閲覧や検索の機能を付けられる
- 入力ウィンドウや印刷の形式を自分で設計できる

Accessは、大量のデータを集めて保管するデータベースの機能と、データを入力、閲覧、保管する機能が一つに合わさったソフトウェアです。Access 1つで、小規模なデータベースアプリケーションが必要とするすべての機能がまかなえます。

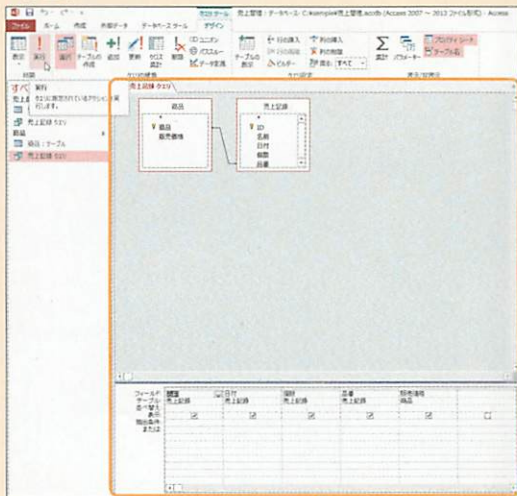
Accessは、データベースソフトの中でも、特にリレーショナルデータベース (RDB) と呼ばれる種類に属します。リレーショナルデータベースは、現在ではデータベースの主流となっていて、大規模なデータベースサーバーとしてもよく使われます。

### ▼クエリ

### ▼テーブル



データを入力する



検索条件などをグラフィカルに表示・修正できる

## 1.1.1

## リレーショナルデータベースとは



データベースとは、様々な情報を集めて格納し、必要に応じて取り出すという役割を果たすソフトウェアです。このように書くと、コンピュータが扱う分野のかなりの部分が、データベースであるといえます。

データベースには、住所録や家計簿のような小規模なものから、銀行のオンラインシステムのような大規模なものもあります。そして、その大半はAccessと同じリレーショナルデータベースの形式をとっています。

ここでは、リレーショナルデータベースの特徴について見ていきましょう。

## データをテーブルで表す



リレーショナルデータベースでは、データは表形式で表現されます。これをテーブルと呼びます。たくさんのデータを表形式で表現するのは、珍しいことではありません。むしろ、日常的によく使われる形式であるといえるでしょう。例えば、手帳にある住所録は普通、表形式で表されます。

## ▼住所録というテーブル

名前	会社名	電話番号	住所

Accessでは、すべてのデータを表形式で表します。手帳などのように紙の大きさの制約がないので、表の列や行は好きなだけ多くとることができます。何十もの列、何千もの行がある表を作ることができます。

また、Accessではこうしたテーブルを複数作成することができます。それぞれのテーブルには、まったく違った列を作成することができるので、まったく違うタイプのデータを格納することができます。システム手帳の中に用途の違う複数の表があるように、住所録のテーブルと予定表のテーブルを、同じデータベースに格納することができるのです。



## リレーションとは

リレーショナルデータベースでは、単に複数のテーブルを格納するだけではなく、それぞれのテーブルで関連性を持たせることができます。例えば、予定表のテーブルに、会う相手の名前を記入することとしましょう。予定表に記入されている相手に電話をしたい場合には、次にその名前ですべて住所録を引いて電話番号を検索するでしょう。このように、一方のテーブルの値をもとに、もう一方のテーブルの値を検索する機能が、リレーションと呼ばれる機能です。



1

Accessを使う前に

2

Accessの基本操作

3

テーブルを使う

4

データベースを設計する

5

クエリを作成する

6

フォームを作成する

7

レポートを設計する

8

データベースの管理

9

Accessのカスタマイズ

10

フォームやレポートの設計

11

アプリを作成する

12

テンプレートの使用

13

データベース作成の手順

資料  
Appendix索引  
Index

## 1.1.2 Accessの機能



Important

Accessでは、データを格納するだけでなく、データベースを扱うための様々な機能が一つになっています。それぞれの機能を実現する要素を、**データベースオブジェクト**といいます。

Accessを使うということは、Accessにおけるデータベースオブジェクトを作成し、設計し、実行するということです。ここでは、Accessにどんなデータベースオブジェクトがあるのかを順に見ていきましょう。

## テーブル



Important

テーブルは、先ほど説明したように、データを格納する入れ物となる表です。Accessを使うときには、まずはこのテーブルの作成から始めることとなります。テーブルは複数作成でき、その間にリレーションを設定することができます。

テーブルの操作は、テーブルの設計とデータ入力の2つに分けられます。テーブルの設計とは、表の列を定義することです。それに対して、データ入力では、テーブルに実際に行を追加して、データを入力していきます。

テーブルの詳しい操作については、「Chapter 3 テーブルを使う」と「Chapter 4 データベースを設計する」で説明します。

## ▼テーブル

ID	名前	日付	個数	品番	クリックして追加
1	山田太郎	2013/02/01	3	A-1	
2	田中一郎	2013/02/01	5	B-2	
3	山田次郎	2013/02/02	1	A-1	
4	山田太郎	2013/02/02	2	A-2	
5	田中一郎	2013/02/03	4	A-1	
6	山田次郎	2013/02/04	2	A-1	
7	川田花子	2013/02/04	3	B-2	
*	(新規)				

フィールド(列)

レコード(行)

## クエリ

クエリは、データベースからデータを取り出したり、データを操作したりするためのものです。主にデータの取得や検索に使用します。

クエリでは、単純にテーブルからデータを取り出すだけでなく、条件を指定したり、並び替えをしたり、合計を算出したりと、複雑な処理を実行することができます。また、複数のテーブルからリレーションを使って情報を抽出するのも、クエリの役目です。

クエリによるデータ操作では、データを一括で追加や削除、変更できます。テーブルから情報を取り出すクエリと、それに対するデータ操作のクエリをうまく組み合わせることで、自動的な処理が可能となります。

クエリについては、「Chapter 5 クエリを作成する」で詳しく説明します。



OnePoint

## ▼クエリ



結合線

フィールドリスト

## フォーム

フォームは、テーブルやクエリのデータを画面表示するためのものです。フォームを使うと、自分で画面を設計して、データを表示させることができます。文字の大きさや配置、色などを細かく設定でき、まるで独自のアプリケーションを開発したかのような使いやすさを実現することができます。

フォームでは、データを表示させるだけでなく、データの入力や変更も行うことができます。フォームについては、「Chapter 6 フォームを作成する」で詳しく説明します。

Onepoint

データの入力や  
変更もできる

## レポート

レポートは、テーブルやクエリのデータを、画面ではなく紙に印刷するためのものです。レポートを使うと、データを紙に印刷するときのレイアウトを細かく指定できます。また、伝票やはがきなど、形式の決まった用紙に対して位置を指定してデータを印字することができます。

また、レポートではデータをグループにまとめて集計を行うことができます。この機能を使って、ビジネスなどでよく使われる各種の集計表を作成できます。レポートは複数定義できるので、同じデータに対して違った集計方法で何種類もの集計表を作成できます。

レポートについては、「Chapter 7 レポートを設計する」で詳しく説明します。

Onepoint

1  
Accessを  
使う前に2  
Accessの  
基本操作3  
テーブルを  
使う4  
データベース  
を設計する5  
クエリを  
作成する6  
フォームを  
作成する7  
レポートを  
設計する8  
データベース  
の管理9  
Accessの  
カスタマイズ10  
フォームや  
レポートの設計11  
アプリを  
作成する12  
テンプレート  
の使用13  
データベース  
作成の手順資料  
Appendix索引  
Index

1  
Accessを  
使う前に2  
Accessの  
基本操作3  
テーブルを  
使う4  
データベース  
を設計する5  
クエリを  
作成する6  
フォームを  
作成する7  
レポートを  
設計する8  
データベース  
の管理9  
Accessの  
カスタマイズ10  
フォームや  
レポートの設計11  
アプリを  
作成する12  
テンプレート  
の使用13  
データベース  
作成の手順資料  
Appendix索引  
Index

## ▼レポート

名前	ID	日付	個数	品名
山本次郎	1	2013/02/04	2	A-1
	3	2013/02/02	1	A-1
山本太郎	4	2013/02/02	2	A-2
	1	2013/02/03	3	A-1
川田花子	7	2013/02/04	3	B-2
田中一郎	5	2013/02/03	4	A-1
	2	2013/02/04	5	B-2

印刷するときのレイアウトを  
指定できる

## マクロ

マクロは、Accessの一連の操作を自動的に実行するものです。複数のレポートを順に印刷するとか、よく使うテーブルとフォームを一度に開くといったことが、マクロを使うとできるようになります。

Onepoint

マクロはまた、条件や繰り返し指定できるので、簡単なプログラム言語としても使うことができます。テーブルへの複雑な操作を指定できるクエリと組み合わせることで、いままで手作業でやっていた多くの作業を自動化することができます。

マクロについては、「9.1 マクロを使う」で説明します。

## ▼マクロ

作業を自動化できる

## モジュール

Officeでは、VBA (Visual Basic for Application) というプログラミング言語を使って、様々な動作をカスタマイズすることができます。Accessも同様で、Visual Basicでプログラムを組んで、それを実行することができます。プログラムはただ実行するだけではなく、フォームのボタンやレポートなどと連動させることもできます。

モジュールは、こうしたプログラムを格納するものです。モジュールについては、プログラミング言語の知識が必要で、本書の範囲を超えますので、詳細については割愛させていただきます。

Attention



# Access 2013の新機能

**Keyword** Windows 8 クラウド

ここでは、Access 2013が前のバージョンであるAccess 2010からどのように変わったのかを見ていくことにします。

Accessは、Access 2007で大きな変化があったから、Access 2010、Access 2013とあまり大きな変化はありませんでした。そのため、Access 2007以降を使ったことのある人ならば、戸惑うことなく使い始めることができるでしょう。

## Point Access 2013の新機能

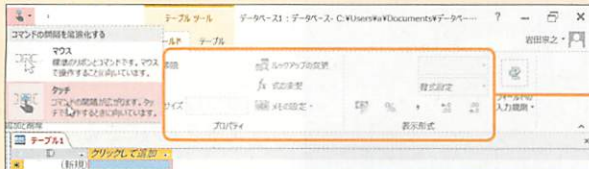
Access 2013では、次の点が前のバージョンとは大きく違ってしています。

### Windows 8 対応

### クラウド対応

Access 2013では、Windows 8の新しいタッチインターフェイスに対応しています。また、ブラウザを通じてインターネットからデータベースにアクセスできる仕組みが用意されています。

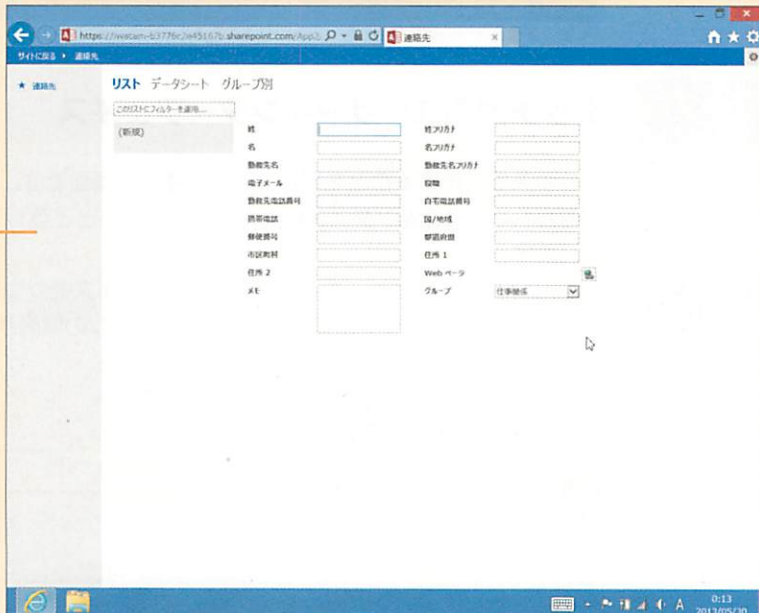
#### ▼タッチインターフェイス



間隔が広がっている

#### ▼アプリケーション

ブラウザでデータベースにアクセスする



1

Accessを使う前に

2

Accessの基本操作

3

テーブルを使う

4

データベースを設計する

5

クエリを作成する

6

フォームを作成する

7

レポートを設計する

8

データベースの管理

9

Accessのカスタマイズ

10

フォームやレポートの設計

11

アプリを作成する

12

テンプレートの使用

13

データベース作成の手順

1  
Accessを  
使う前に2  
Accessの  
基本操作3  
テーブルを  
使う4  
データベース  
を設計する5  
クエリを  
作成する6  
フォームを  
作成する7  
レポートを  
設計する8  
データベース  
の管理9  
Accessの  
カスタマイズ10  
フォームや  
レポートの設計11  
アプリを  
作成する12  
テンプレート  
の使用13  
データベース  
作成の手順資料  
Appendix索引  
Index

## 1.2.1 タッチインターフェイス

Access 2013では、Windows 8のタッチインターフェイスへの対応として、タッチジェスチャーに対応すると共に、タッチ操作で押しやすいユーザーインターフェイスに切り替えることができます。

## タッチジェスチャー



タッチジェスチャーとは、タッチパネル上で指を特定の方法で動かすことで、特定の動作を実行する機能です。タップによる選択や、スクロール、拡大縮小などに対応しています。また、キーボードがなくても、タッチキーボードを使って文字を入力することができます。

## ▼タッチキーボード



タブレットでも  
文字を入力できる

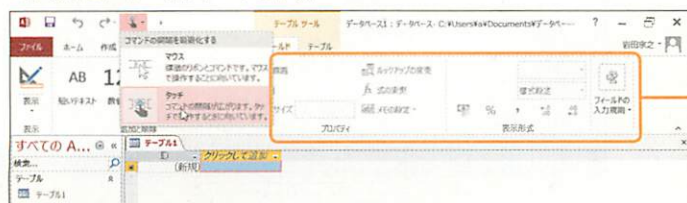
## タッチ対応ユーザーインターフェイス

マウスで操作することを仮定している通常の画面では、ボタンやボックスがぎっしりと配置されているため、タッチで操作しようとするとうまくも押し間違いが多くなってしまいます。



Access 2013では、ユーザーインターフェイスをマウス用とタッチ用とで切り替えることができます。タッチ用に切り替えると、ボタンの間隔が広がって、指でも押しやすくなります。

## ▼タッチユーザーインターフェイス



間隔が広がっている



## 1.2.2

## クラウド対応



Windows 8とOffice 2013では、クラウド対応の機能が追加されました。常時インターネットに接続し、Microsoft社のサーバーとやりとりすることで、インターネットにつながっていれば、どのPCやタブレット端末などからでも同じように情報を共有し扱うことができるようになります。

また、Access 2013でアプリケーションを作成することで、ブラウザーを通じてインターネットからデータベースにアクセスすることができます。

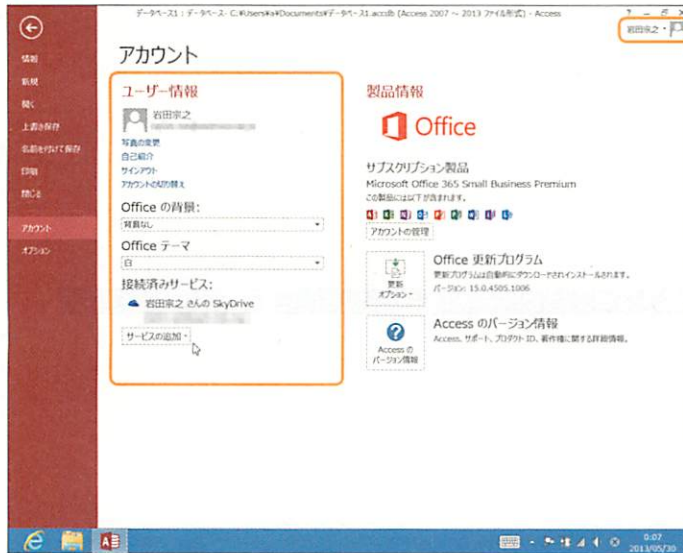
## Windows アカウント



Windows アカウントにサインインすると、右上にそのことが表示され、サーバーを通じて様々な設定情報がやりとりされるようになります。これによって、Windows アカウントにサインインすることで、どのPCであっても同じ設定で使うことができますようになります。

Accessでは、使用したファイルの履歴やOfficeテーマといった項目が、Windows アカウントによって保存されます。

## ▼ Windows アカウント



サインインしているユーザー

1  
Accessを使う前に

2  
Accessの基本操作

3  
テーブルを使う

4  
データベースを設計する

5  
クエリを作成する

6  
フォームを作成する

7  
レポートを設計する

8  
データベースの管理

9  
Accessのカスタマイズ

10  
フォームやレポートの設計

11  
アプリを作成する

12  
テンプレートの使用

13  
データベース作成の手順

資料  
Appendix

索引  
Index

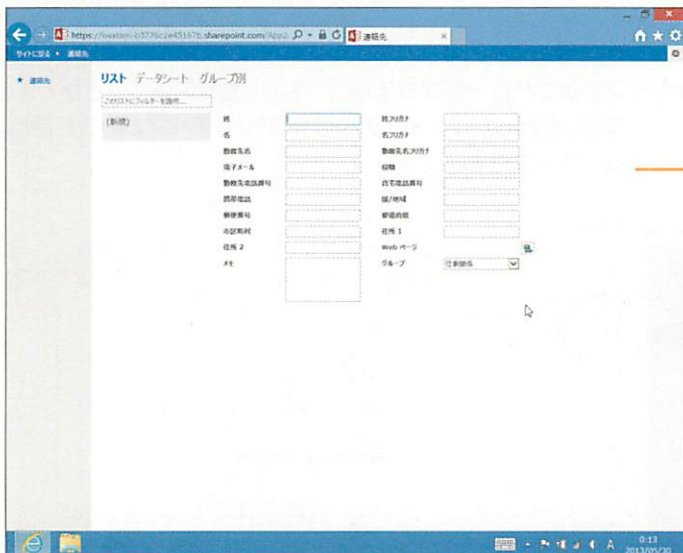
## アプリケーション



ファイルにデータを格納する従来のデータベースとは違って、SharePoint サーバーまたは Office 365 を使うと、インターネット上のサーバーにデータベースを格納し、ブラウザを通じてそこにアクセスできるようになります。この場合、データベースを設計するためには Access が必要ですが、使うだけならウェブブラウザさえあれば、誰でもデータベースにアクセスしてデータを追加したり閲覧したりすることができます（もちろん、特定の人のみしかアクセスできないように制限することもできます）。

このように、ブラウザでアクセスできるようにサーバー上に置くデータベースを、Access ではアプリケーションと呼んでいます。

### ▼アプリケーション



ウェブブラウザでデータベースにアクセスする

1  
Accessを  
使う前に

2  
Accessの  
基本操作

3  
テーブルを  
使う

4  
データベース  
を設計する

5  
クエリを  
作成する

6  
フォームを  
作成する

7  
レポートを  
設計する

8  
データベース  
の管理

9  
Accessの  
カスタマイズ

10  
フォームや  
レポートの設計

11  
アプリを  
作成する

12  
テンプレート  
の使用

13  
データベース  
作成の手順

資料  
Appendix

索引  
Index



# Access 2013を導入する

**Keyword** ・ オフィススイート ・ ライセンス認証 ・ インストール

Access 2013とはどんなものであるかを理解したところで、次に、Access 2013を購入し、インストールするまでの流れを説明します。

Accessを使用するにあたっては、まず、Accessが必要とするシステム要件を確認しましょう。また、Office 2013ではダウンロード版やクラウドサービスがあり、様々な形態で導入することができるようになっていきますので、注意が必要です。

## Point Access 2013を導入する

ここでは、次の項目について説明します。

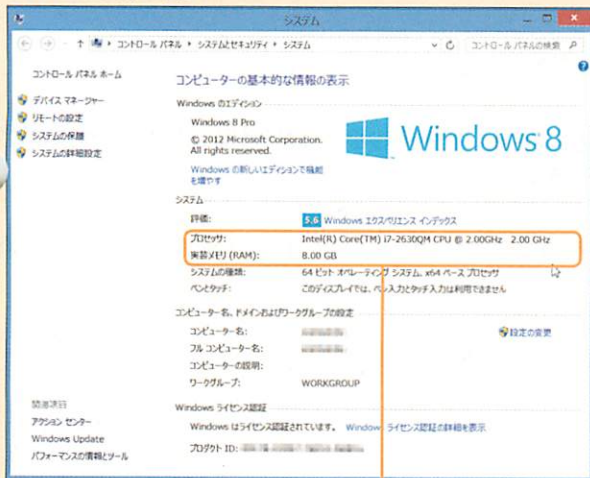
Access 2013を動かすためのシステム要件

Access 2013を導入形態

Access 2013のインストール

インストール作業を行う前に、まず、現在使っているPCにAccess 2013がインストールできるのか、そして何を購入すればAccess 2013が動作させられるのかを確認しましょう。

### ▼システム要件の確認



プロセッサとメモリ (RAM) に注目

### ▼Officeのホームページ



サインインする

1  
Accessを  
使う前に

2  
Accessの  
基本操作

3  
テーブルを  
使う

4  
データベース  
を設計する

5  
クエリを  
作成する

6  
フォームを  
作成する

7  
レポートを  
設計する

8  
データベース  
の管理

9  
Accessの  
カスタマイズ

10  
フォームや  
レポートの設計

11  
アプリを  
作成する

12  
テンプレート  
の使用

13  
データベース  
作成の手順

資料  
Appendix

索引  
Index

## 1.3.1 システム要件

まずは、お使いのPCでAccess2013を実行させることができるかどうかを確認しましょう。

## Process 必要なOSを確認する

Office 2013をインストールするには、現在のところ、PCに次のどれかのOSがインストールされていなければなりません。

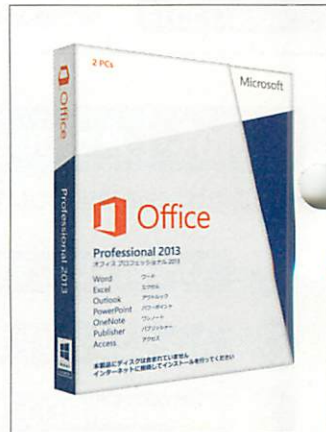


- Windows 7
- Windows 8
- Windows Server 2008 R2
- Windows Server 2012



これ以外のOSでは、Office 2013をインストールすることができないので気を付けなくてはなりません。特に、Windows Vista/XPはシステム要件に入っていないことに注意してください。

## ▼ Office 2013



## Process ハードウェアの必要条件を確認する

Office 2013を動作させるには、次のハードウェアが必要です。



- プロセッサ  
1GHz以上のプロセッサが必要です。32ビットでも64ビットでも動作します。
- メモリ  
32ビットOSの場合1GB以上、64ビットOSの場合は2GB以上のメモリが必要です。一部機能は、さらに多くのメモリを必要とします。
- ディスプレイ  
1024×576以上の解像度を持つモニターで動作可能ですが、1366×768以上の解像度が推奨されています。
- ハードディスク  
ハードディスクの空き領域が3GB以上必要です。
- インターネット  
インストールするにはインターネットを通じてファイルをダウンロードする必要があります。

プロセッサとメモリの量は、PC情報画面から確認できます。Windows 8では次の操作で確認できます。

▼チャーム

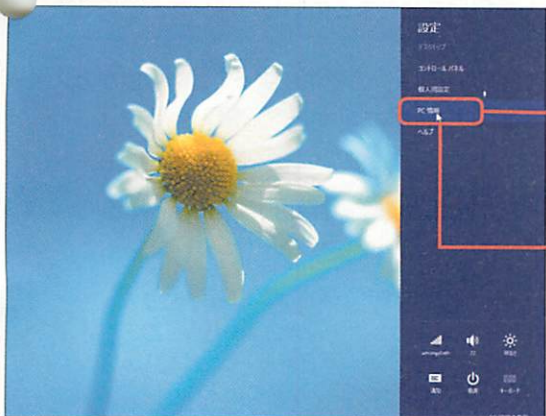


① チャームを開き、設定を選択します。

① チャームを開き、[設定]を選択する



▼PC情報の実行

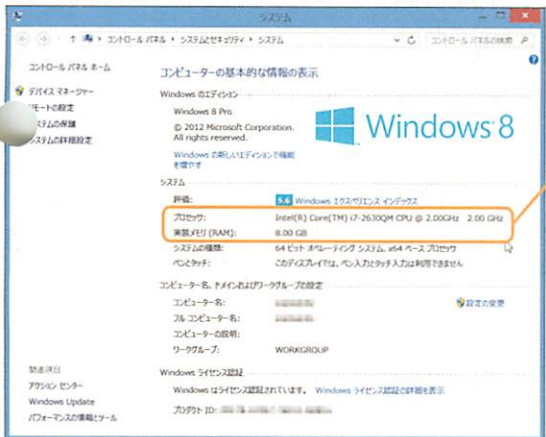


② PC情報を実行します。

② [PC情報]を選択する



▼[PC情報]画面



③ PC情報が開きます。ここで、プロセッサやメモリ容量を確認できます。

RAMの量とプロセッサの速度が表示される

Memo



Microsoft社では、Office 2013の試用版をホームページで配布しています。この試用版を使うと、期間限定ですが、無料でOffice 2013を試すことができます。また、Office 365の試用版でAccessを動かすこともできます。自分のPCでOffice 2013が快適に動くかどうか心配な場合は、まずは試用版を使ってみて、確かめてみるといでしょう。試用版については、Officeホームページ (<http://office.microsoft.com/>) を参照してください。

1 Accessを使う前に

2 Accessの基本操作

3 テーブルを使う

4 データベースを設計する

5 クエリを作成する

6 フォームを作成する

7 レポートを設計する

8 データベースの管理

9 Accessのカスタマイズ

10 フォームやレポートの設計

11 アプリを作成する

12 テンプレートの使用

13 データベース作成の手順

資料 Appendix

索引 Index

## 1.3.2 パッケージを選択する

Access 2013を使用するには、Access 2013を単体で購入することもできますが、WordやExcelなどのアプリケーションも同時に使うという人は、様々なアプリケーションを含んだオフィススイートのOffice 2013を購入することもできます。

また、Office 365というクラウドサービスを使うと、ファイル共有などのクラウドサービスに加えて、パッケージを購入することなく月額（年額）課金制でOfficeを使用することができます。

### Microsoft Office

Microsoft Officeは、WordやExcelなど、オフィスでよく使われるいくつかのソフトがひとまとめにされた製品です。このような製品は、よくオフィススイートと呼ばれます。Officeは一つの製品ではなく、たくさんの製品をひとまとめにしたパッケージの名前で呼ばれるということをまず注意してください。

Office 2013には、含まれているアプリケーションの種類によって、いくつかのスイートに分かれています。Accessを使う場合には、Professionalをご購入ください。



#### ▼ Officeのスイート

エディション	内容	アプリケーション
Office Personal 2013	家庭で使うことを想定した、個人向けのスイートです。	Word 2013, Excel 2013, Outlook 2013
Office Home and Business 2013	オフィスで通常の事務に携わる人向けのスイートです。Personalに加えて、プレゼンテーションツールであるPowerPointとノート作成ソフトOneNoteが追加されています。	Personalの各ツール + PowerPoint 2013, OneNote 2013
Office Professional 2013	ビジネスユースに最適な最上位のスイートです。Home and Business 2013に加えて、データベースソフトのAccessと、印刷業務を行うPublisherが追加されています。	Home and Businessの各ツール + Access 2013, Publisher 2013
Office Professional Academic 2013	学生向けに、特別な価格でProfessionalを提供しています。	Professionalと同じ

また、Microsoft社は、企業や団体向けにボリュームライセンスを適用しています。ボリュームライセンスと聞くと大企業向けだと思ってしまうがちですが、小規模な会社でも十分に適用範囲内です。ボリュームライセンスについては、販売店にお問い合わせください。

1

Accessを  
使う前に

2

Accessの  
基本操作

3

テーブルを  
使う

4

データベース  
を設計する

5

クエリを  
作成する

6

フォームを  
作成する

7

レポートを  
設計する

8

データベース  
の管理

9

Accessの  
カスタマイズ

10

フォームや  
レポートの設計

11

アプリを  
作成する

12

テンプレート  
の使用

13

データベース  
作成の手順資料  
Appendix索引  
Index

## Office 365



Office 365は、クラウドによるグループウェアサービスです。メールや予定表、ファイル共有などの機能を、インターネット経由でどこからでも使えるようにするサービスです。一人で使うだけでなく、複数人で作業をするための文書管理、掲示板、メッセージサービスなども提供されます。

Office 365では、Office 365 ProPlusというプランで、クラウド上でAccessも含むOfficeアプリケーションを使えるようになります。Office 365では、SharePointサーバーの機能も使えるようになりますので、専用のSharePointサーバーを用意しなくても、インターネットを通じてアクセスできるWebアプリケーションを手軽に構築することができます。

Office 365は、Office 2013とは違って月額（あるいは年額）制で、高価なOfficeパッケージを購入する必要がなく、手軽に使い始めることができるようになっています。Accessアプリケーションも含め、様々なグループウェア機能が使えるようになることも利点です。

Office 365もお試し期間が設定されていて、一定期間は無料で使うことができますようになっていますので、あれこれ考える前にまずは試してみることをおすすめします。



### Memo Office 2013の提供形態

Office 2013では、ソフトウェアの標準的な提供形態が、CDやDVDではなくインターネット経由でのダウンロードになりました。お店で売っているパッケージを購入しても、箱の中に入っているのはプロダクトキーが書かれた紙だけで、ソフトウェア本体はインターネットを通じてダウンロードしなくてはなりません。DVDが必要な場合は別途注文することもできますが、時間と追加の費用がかかります。

また、オンラインストアを通じて、プロダクトキーのみを購入することもできます。この場合、プロダクトキーは決済後すぐにネット上で入手できます。物理的に何も手元に残らないことが心配になる人もいるかもしれませんが、プロダクトキーを書いた紙をなくしてしまう心配もなく、宅配便が届くまで待つ必要もないので、おすすめです。

1  
Accessを  
使う前に

2  
Accessの  
基本操作

3  
テーブルを  
使う

4  
データベース  
を設計する

5  
クエリを  
作成する

6  
フォームを  
作成する

7  
レポートを  
設計する

8  
データベース  
の管理

9  
Accessの  
カスタマイズ

10  
フォームや  
レポートの設計

11  
アプリを  
作成する

12  
テンプレートの  
使用

13  
データベース  
作成の手順

資料  
Appendix

索引  
Index

## 1.3.3

## Office 2013のインストール

ここでは、Access 2013をインストールし、使えるようにするまでの手順を説明します。Access 2013は単体で購入することもできますが、Office 2013 Professionalに同梱されていますので、こちらを利用する人も多いでしょう。



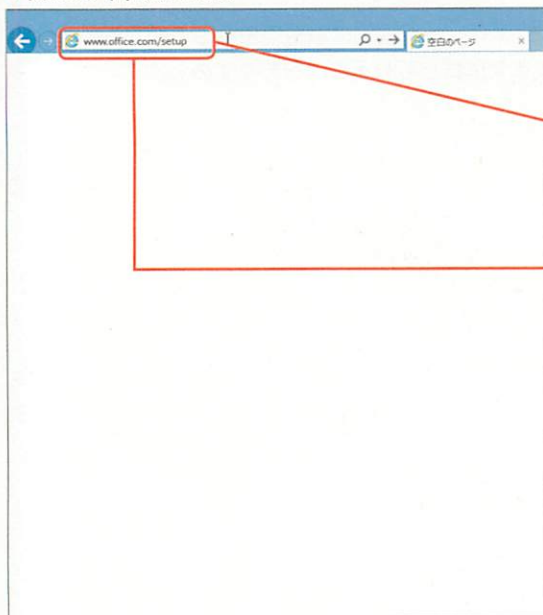
Office 2013では、通常、インストール用のCDやDVDは入っていません。パッケージを購入しても、入っているのはプロダクトキーだけで、インストール用のファイル自体はインターネット経由でダウンロードすることになります。

## Process

## Office 2013のインストールファイルをダウンロードする

Office 2013のインストール用ファイルは、インターネットからダウンロードして実行します。PCをインターネットに接続して、以下のようにインストールを進めてください。

## ▼ウェブサイトへアクセス



① セットアップ用のウェブサイトへアクセスします。

① インターネットエクスプローラーを起動し、<http://www.office.com/setup/>にアクセスする



## Memo Microsoftアカウント

Officeインストール時には、Microsoftアカウントでのサインインが必要です。Windows 8では、既定ではMicrosoftアカウントを使ってログインすることになりますので、Officeインストール時にもそのアカウントを使って処理が行われます。

Windows 7をお使いの場合、またはWindows 8でもローカルアカウントをお使いの方は、セットアップの途中でMicrosoftアカウントのサインインを要求されることがあります。この場合は、指示に従ってメールアドレスとパスワードを入力してください。Microsoftアカウントを持っていない場合は、サインイン画面で新しく登録してください。



▼プロダクトキーの入力



2 Officeセットアップサイトで、最初にプロダクトキーを入力し、**開始**をクリックします。

2 プロダクトキーを入力し、**[開始]**をクリックする

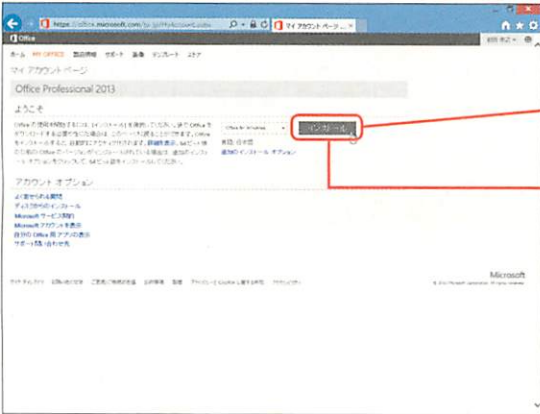


Onepoint



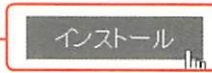
Office 2013では、オンラインでライセンス管理されていますので、1つのプロダクトキーを用いて、ライセンスで許可された台数以上のPCにOfficeをインストールすることはできません。複数のPCにインストールする場合には、PCの数だけライセンスを購入することはもちろんのこと、どのPCにどのプロダクトキーを使用したかを控えておいて、複数のPCに対して同じプロダクトキーを入力してしまわないように気を付けます。

▼インストールの開始



3 インストールをクリックします。

3 **[インストール]**をクリックする



Onepoint



通常は、32ビット版のOfficeアプリケーションがインストールされます。64ビット版をインストールする場合には、**追加のインストールオプション**をクリックして64ビット版を指定します。ただし、特に理由のない限り、64ビットWindowsであっても、32ビット版をおすすめします。Q&Aをご参照ください。

▼セットアッププログラムの実行



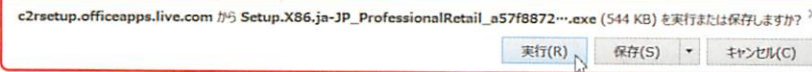
4 セットアップ用のプログラムがダウンロードされるので、**実行**をクリックします。

4 **[実行]**をクリックする



このあと、「Process Office 2013をインストールする」に進んでください。

Onepoint



- 1 Accessを使う前に
- 2 Accessの基本操作
- 3 テーブルを使う
- 4 データベースを設計する
- 5 クエリを作成する
- 6 フォームを作成する
- 7 レポートを設計する
- 8 データベースの管理
- 9 Accessのカスタマイズ
- 10 フォームやレポートの設計
- 11 アプリを作成する
- 12 テンプレートの使用
- 13 データベース作成の手順

資料 Appendix

索引 Index

Process

## Office 365からインストールファイルをダウンロードする

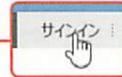
Office 365の契約をした場合には、Office 365の画面からOfficeをインストールします。Office 365のホーム画面から始めます。

### ▼Office 365ホームページ



1 Office 365のホームページでサインインをクリックします。

1 [サインイン]をクリックする



### ▼サインイン方法の指定



2 Office.comへのサインイン方法を指定します。Office 365の場合は、**組織アカウント**を選択します。

2 [組織アカウント]を選択する

### ▼サインイン



3 Office 365のサインイン画面で、メールアドレスとパスワードを入力してサインインします。

3 Office 365のアカウントのメールアドレスとパスワードを入力して、[サインイン]をクリックする

1 Accessを使う前に

2 Accessの基本操作

3 テーブルを使う

4 データベースを設計する

5 クエリを作成する

6 フォームを作成する

7 レポートを設計する

8 データベースの管理

9 Accessのカスタマイズ

10 フォームやレポートの設計

11 アプリを作成する

12 テンプレートの使用

13 データベース作成の手順

資料 Appendix

索引 Index

▼ Office 365 管理者ダッシュボード



4 Office 365の管理画面が開きます。ここでソフトウェアをクリックします。

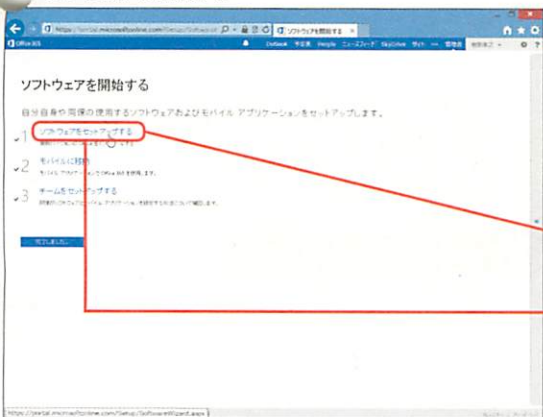
4 [ソフトウェア]をクリックする

ソフトウェア

Onepoint

Office 365の管理者でない場合、別の画面が表示される可能性があります。この場合は、あなたの組織の管理者に操作方法をお問い合わせください。

ソフトウェアを開始する

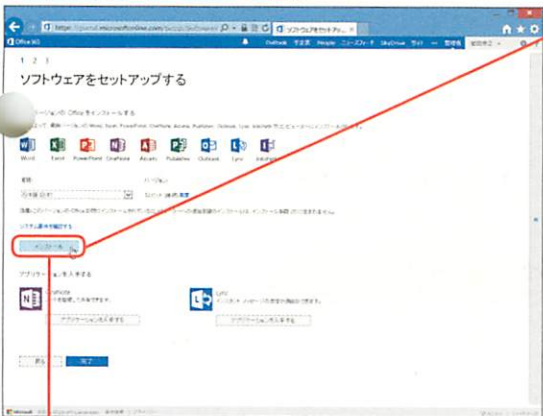


5 ソフトウェアをセットアップするをクリックします。  
6 ソフトウェアのインストール画面が開きます。ここで、Officeのインストールをクリックします。  
7 セットアップ用のプログラムがダウンロードされるので、実行をクリックします。

5 [ソフトウェアをセットアップする]をクリックする

ソフトウェアをセットアップする

▼ソフトウェアのインストール画面



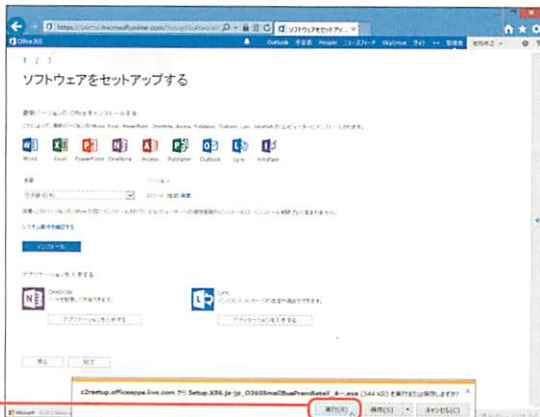
6 [インストール]をクリックする

7 [実行]をクリックする

インストール

実行(R)

▼セットアッププログラムの実行



1 Accessを使う前に

2 Accessの基本操作

3 テーブルを使う

4 データベースを設計する

5 クエリを作成する

6 フォームを作成する

7 レポートを設計する

8 データベースの管理

9 Accessのカスタマイズ

10 フォームやレポートの設計

11 アプリを作成する

12 テンプレートの使用

13 データベース作成の手順

資料 Appendix

索引 Index

## Process

## Office 2013をインストールする

Office 2013またはOffice 365のインストールファイルを実行すると、インストールとセットアップが始まります。画面の指示に従ってセットアップを進めてください。

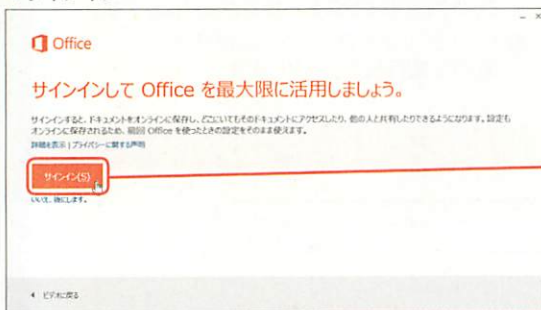
## ▼Officeのインストール



① 準備画面がしばらく表示されたあと、Officeのインストールが始まります。次へをクリックします。

① [次へ]をクリックする

## ▼サインイン



② Officeの説明ムービーのあと、サインインを促す画面になります。あとで行うこともできますが、ここでサインインをクリックしましょう。

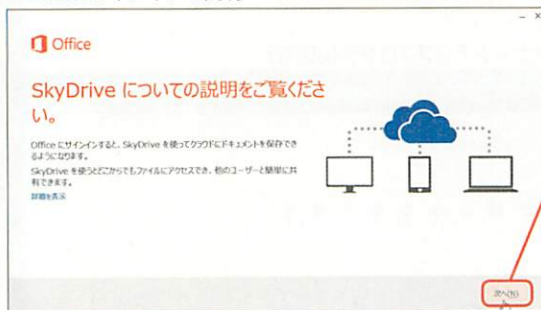
② [サインイン]をクリックする

## OnePoint



サインインすると、Officeのテーマ設定などを同期したり、クラウドにドキュメントを保存したりできるようになります。

## ▼Officeサインインの説明

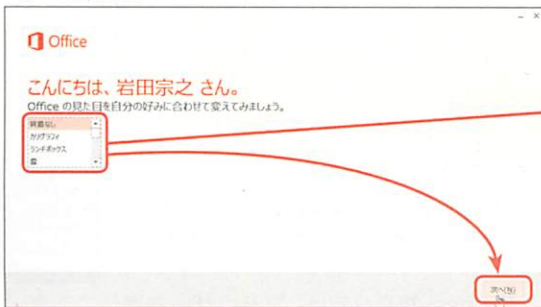


③ サインインの説明が表示されます。次へをクリックします。

③ [次へ]をクリックする

1  
Accessを  
使う前に2  
Accessの  
基本操作3  
テーブルを  
使う4  
データベース  
を設計する5  
クエリを  
作成する6  
フォームを  
作成する7  
レポートを  
設計する8  
データベース  
の管理9  
Accessの  
カスタマイズ10  
フォームや  
レポートの設計11  
アプリを  
作成する12  
テンプレートの  
使用13  
データベース  
作成の手順資料  
Appendix索引  
Index

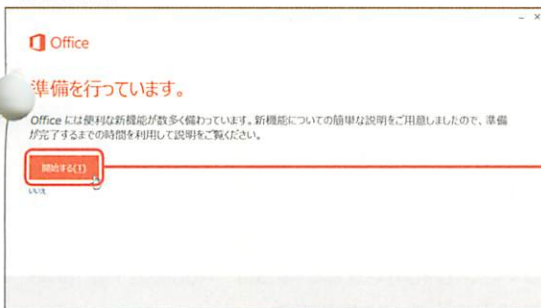
## ▼テーマの指定



4 Officeのテーマを指定し、次へをクリックします。

4 好きなテーマを指定して、[次へ]をクリックする

## ▼説明の開始



5 セットアップが続きます。その間を利用して簡単な説明を見ることができます。開始するボタンをクリックします。

5 [開始する]ボタンをクリックする

## ▼新機能の説明



6 Office 2013の新機能についての説明が始まります。指示に従って画面をクリックしてください。

6 指示に従ってクリックする

## ▼セットアップ完了



7 セットアップが終了すると、完了画面が表示されます。完了ボタンをクリックして画面を閉じます。

7 [完了]ボタンをクリックする

1 Accessを使う前に

2 Accessの基本操作

3 テーブルを使う

4 データベースを設計する

5 クエリを作成する

6 フォームを作成する

7 レポートを設計する

8 データベースの管理

9 Accessのカスタマイズ

10 フォームやレポートの設計

11 アプリを作成する

12 テンプレートの使用

13 データベース作成の手順

資料 Appendix

索引 Index

1  
Accessを  
使う前に2  
Accessの  
基本操作3  
テーブルを  
使う4  
データベース  
を設計する5  
クエリを  
作成する6  
フォームを  
作成する7  
レポートを  
設計する8  
データベース  
の管理9  
Accessの  
カスタマイズ10  
フォームや  
レポートの設計11  
アプリを  
作成する12  
テンプレート  
の使用13  
データベース  
作成の手順資料  
Appendix索引  
IndexChapter 1  
質問と回答

## Q &amp; A



question

64ビット版のWindowsを使っているのですが、32ビット版のOfficeがインストールされてしまいました。

通常は32ビット版を使います。



answer

64ビット版のWindowsであっても、32ビット版のアプリケーションを問題なく実行できますので、32ビット版のOfficeでかまいません。

32ビット版と64ビット版の一番大きな違いは、使えるメモリ容量にあります。しかし、アプリケーションの場合は、1つのアプリケーションで4Gバイト以上のメモリを消費しない限り、64ビット版にするメリットはほとんどありません。Accessはデータベースソフトではありませんが、よほど大きなデータベースでない限り32ビット版で十分ですし、逆にこれが問題になるほどの大規模データベースには、SQL Serverなど他のデータベース製品を使うべきです。

いままで、64ビット版にするメリットがないと説明しましたが、64ビット版にすることによるデメリットが一つあります。アドイン(拡張モジュール)の互換性がないということです。64ビット版のOfficeをインストールしてしまうと、32ビット版のアドインを追加できなくなってしまいます。

64ビット版にするメリットはほとんどなく、デメリットが存在するため、64ビット版Windowsであっても32ビット版のOfficeをインストールすることをおすすめします。



question

作成したデータベースを使用するだけでも、Accessを購入しなくてもなりませんか？

アプリケーションを作成する方法と、ランタイムを使う方法があります。



answer

Access 2013では、ブラウザーを通じてアクセスできるアプリケーションを作成できるようになりました。この機能を使うと、Access 2013で作成したアプリケーションに、ウェブブラウザーを使ってどのPCからでもアクセスすることができるようになります。

しかし、アプリケーションを運用するには、Office 365などのクラウドサービス、またはSharePointサーバーが必要になります。こうしたサービスが利用できない場合は、Access Runtimeを使用することになります。

Access Runtimeは、通常のAccessから、データベースの設計に関する機能を削除したものです。テーブルやフォーム、クエリなどの設計はできませんが、データ入力や表示などの機能はひととおり使えます。Access RuntimeはMicrosoft社のWebページから無償でダウンロードできます。このAccess Runtimeをダウンロードしてインストールすれば、Access 2013がないPCでも、Accessデータベースを使用することができます。

ただし、現在はまだAccess 2013 Runtimeは提供されていないので、代わりに1つ前のバージョンであるAccess 2010 Runtimeを使用することになります。Access 2013とAccess 2010では機能はほとんど同じですので、ほぼそのまま使用できますが、一部動作が微妙に異なる可能性がありますので、Access 2013で作ったデータベースをAccess 2010 Runtimeで使用する場合は、動作をひととおり試してみる方がよいでしょう。